

增補
頭書

列家圖彙大成八

五六一

農商務省
圖書
第二十二號
第一冊

太政官文庫
和書門
八二二七
類號
函架冊
〇八二七

內閣文庫	
番號	和 8237
冊數	10 (8)
函號	210 7



頭書增補訓蒙圖彙卷之十六

米穀

此部ふい五穀の類とて
くひ物乃ちくひと記す

明治十二年購求

○穀の氣は胃の氣と
中と補ひ腎精とは腸胃と
○補ハ中とわく氣と
胃とわく小便とを
寒洩病と
○粟の腎氣と一カハ脾
胃の熱と小便と利
反胃と治す
○稷の氣と胃と不足と補ひ
熱とのもん中と厚く胃と利
一五穀とをり暑気解と
○稲の米同かていぬ



早稲
晚稲
精米
新米
糲米
粳米
糯米
同

頭書增補訓蒙圖彙卷之十六

稗ハハカ苗ハハカ入ス

○稗ハハカ中ハハカとハハカ多クハハカ

○飢ハハカとハハカハハカ

○麥ハハカ虚ハハカとハハカハハカ

○其ハハカ高ハハカ腸ハハカ胃ハハカとハハカハハカ

○熱ハハカ腫ハハカ風ハハカ痛ハハカとハハカハハカ

○菜ハハカ食ハハカとハハカ消ハハカハハカ

○池ハハカ南ハハカとハハカハハカ

○麻ハハカ女ハハカ人ハハカ徑ハハカ候ハハカ通ハハカとハハカ

○紅ハハカ氣ハハカとハハカまハハカ腎ハハカとハハカ

○五ハハカ豆ハハカ和ハハカ一ハハカ小ハハカ便ハハカとハハカ

○疏ハハカ小ハハカ便ハハカとハハカ利ハハカ一ハハカ腹ハハカ

○吐ハハカ逆ハハカとハハカ治ハハカとハハカ胡ハハカ豆ハハカ穉ハハカ豆ハハカ

○殺ハハカ水ハハカ腫ハハカとハハカ治ハハカ一ハハカ惡ハハカ血ハハカ

○酒ハハカ病ハハカとハハカ解ハハカ一ハハカ胃ハハカ中ハハカの

○熱ハハカとハハカハハカ

○酒ハハカ病ハハカとハハカ解ハハカ一ハハカ胃ハハカ中ハハカの

○熱ハハカとハハカハハカ



稗

粟

稷

稗



藜

藜

麥

稗

○蒼の水氣と下一便
 血と下一便と利一服
 満消湯と作
 ○菘の中と和一氣依
 くと一咽とやめ入すと
 ぶさかひくくらん酒毒
 と解と扁豆蘿豆厚豆
 力一ひ小同
 ○胡麻の氣力とま一肌
 肉と長一筋骨とま
 一大小腸と利一耳目
 とのま一ひ小同
 ○嬰粟の風毒とま一疥
 熱と一疥と治一五男と
 治一ひ小同とま一ひ小同



○蚕豆の胃とま一ひ小同
 膀胱と和と一ひ小同
 王黍の氣とま一中和
 一腹とま一ひ小同
 ○蜀黍の中瓜のま一腸
 胃とま一ひ小同
 治と蘆稜萩絲同
 ○刀豆の中とま一氣依
 くと一腸胃と利一とま
 くと瓜と腎とま一とま
 とあかかん
 ○黎豆の中とま一胃と
 ま一小便とつとま一狸豆



類書備考 卷之六

虎豆カシビに同

○燕麥のわき平とく

カシビとくひ腸とく

のうふと一名雀麥とく

○穂いねのやかりとく

のき紙いよひせ今梅と

ふみよと

○葉とくあり木稗木

稗稻草あび目稗

心とくとく稽藍桔並同

○穀とく木麻粟麥豆

あま瓜五穀といふ種と

たの稗といふ種と

○葉いよとくあり珠同

の曹植詩いよとく

○莢いよとくありカシ

豆角かり葉いよとく

あり馬とく瓜とく

○饅頭いよとく肉餡とく

ちひし事かり小豆餡

のの瓜素饅といふ餡

かたりのとく蒸餅とい

今の新製品とあり唐

饅頭といよとく餅饅

頭とくいよとくあり

○飯いよとくあり又あり

強飯といよとく赤飯とい

きあり乾飯といよとく水

飯の湯つりあり麥飯い

ひとあり粟飯といよとく

胡麻 油麻 脂麻

罌粟

豆



燕麥

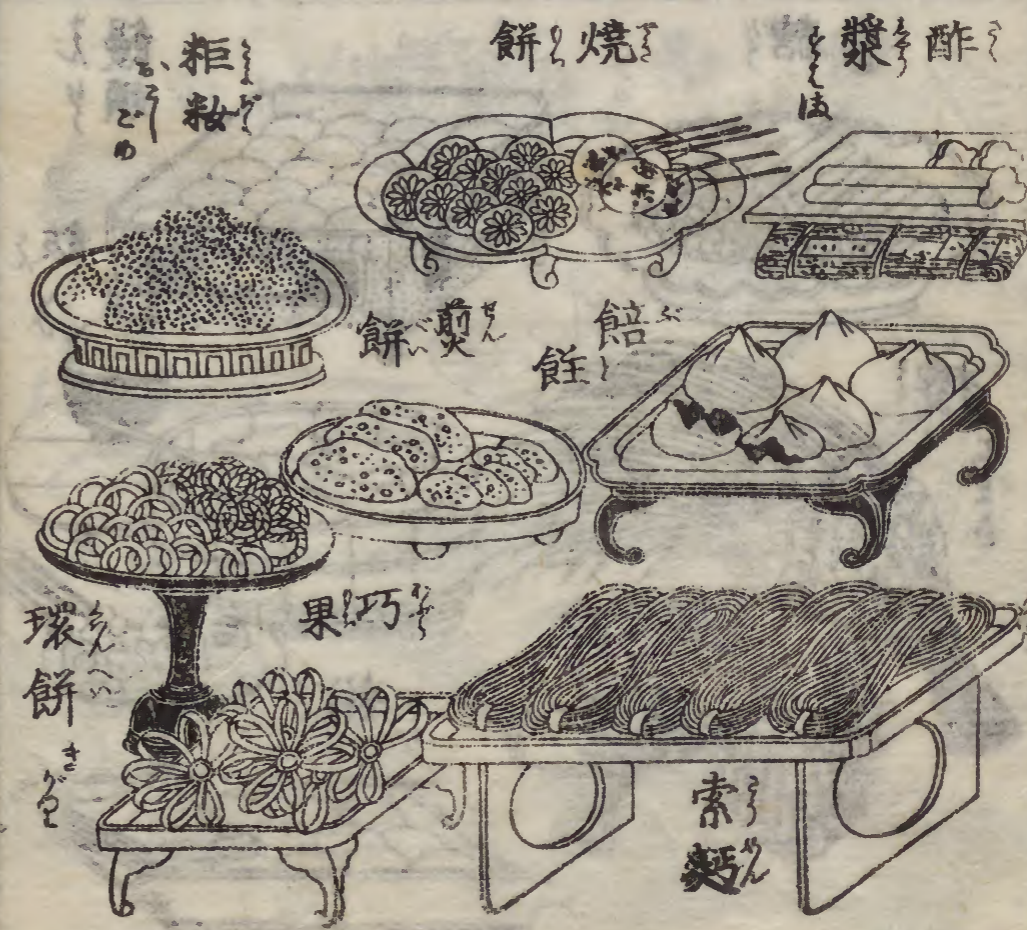
玉黍

蜀黍



刀鞘豆 挾豆

○酢漿 酢漿のこぼれはかきくさ
 載るも書べし俗に湖濱
 とやうなると
 ○焼餅 焼餅は食とも書べし
 串にさして煮るとさぐくさ
 又そのこぼれはつらうと
 かたし名づく
 ○粗粒 粗粒はさくさくさく
 とつらうと始やくめあはる
 かりと俗に眞茶とつら
 ねと書く
 ○菓餅 菓餅は餅とのみ
 菓わつらうさくさく
 餅とも書べし



頭書增補訓蒙圖彙卷之十七

菜蔬

此部小のあくの野菜
 菜蔬のきざひとあらう

○蕪菁 蕪菁は食と消し氣と
 痰を嗽しひいてひくさる
 中と通しととらふとや
 カラうしひ
 ○菜菔 菜菔は食と消し
 痰を嗽しひいてひくさる
 中と通しととらふとや
 カラうしひ
 ○芥 芥は頭中の風熱とさ
 酒後の熱とさや大小
 腸を利し血脈とあらうと益
 ○葱 葱は汗と熱と風と去



本草綱目卷之...

小ぶんとほげは魚肉の毒
とろろし中ぬりてめい
から瓜しむ
○葦の胃熱とのぞく中と
わくろり虚とせむかひし
のりていし
○蒜の脾胃小飲一中と
わくろろくらん腹中を
のりていし
○薤の水氣とろり中とわ
くろり不足とせむかひし
きくろろ腹にうり氣瓜
ふ
○菠薐の酒毒と解し
胸とひりた気とろり
りきとろりか



○胡葱の中とわくろり
とろり食瓜消し虫
とろりしとれとれ
○芋の腸胃とゆげ肌と
みら熱とろり湯とせむ
とろりき宿血とせむ
○若菜類の虚とせむかひ
氣力とほし
腰のいしとせむかひ
○牛房の中風しのりて
氣風とせむかひは西目
をせむかひし
○胡葱の氣瓜とせむかひ
とろりかひ腸胃とれし入
腹とせむかひとせむかひ
に蓋わくろり換か



本草綱目卷之...

○苜蓿の胸膈をゆるぎ筋
骨とくく目眩のき
らみ乳けとつじりて
ころん

○芥の骨節のねねをのど
きこもせんと活し胃を
ゆるぎ腫と利し九散と
利し

○薺の肝と利し中とや
つげ胃をふし入るうせ
利し

○落の葉をわらひてゆら
し葉の煮てくく入るし
軟をそ和利はくゆらに
のやまる幸多し

○天蓼の中風口ゆをけん
き熱と解し
きくくる女子の産後を治

○蕺荷の蓋をあわらう海虫
蛇毒と解し多くくく入る
脚に利しわら

○獨活の痛風と活し中風
湿冷逆気皮膚のゆら
足のとつて活し

○野苧の腹を消し虫とく
し痔下血と活し血崩
赤白の帯下と活し

苜蓿

芥

薺

落

天蓼

蕺荷

獨活

野苧

獨活



本草綱目卷之二十一

○瓠 口中のくまをい
と治す水乃瓜利し
熱とろ心肺とろ
○瓜 瓜をて小便といじ
湯とろ熱とのぞいた
腸とゆるくを羊角瓜
○冬瓜 小便と利し湯
とろの氣とすしひのつ
とのぞいた熱とろ
○曹 曹の氣瓜す風を
血とやぶる地ふ生
と菌とつふ本に生
曹とろ
○胡瓜 熱とろとろ
湯瓜解し瓜と利
小児ふつ



○絲瓜 瓜の皮とりて
とろとろひとろ瓜
とろとろ腫ののり瓜
とろとろ熱とのぞいた
○山葵 瓜の皮とりて
とろとろ食とす瓜
と利し瘡とゆる
○茄 瓜の皮とりて
とろとろ腫と消し腸
とゆるくとろ銀茄
カをびかり
○雞腸 瓜の皮とりて
とろとろい瓜とろ
人ふ益あり
○刺 瓜の皮とりて



本草綱目卷之七

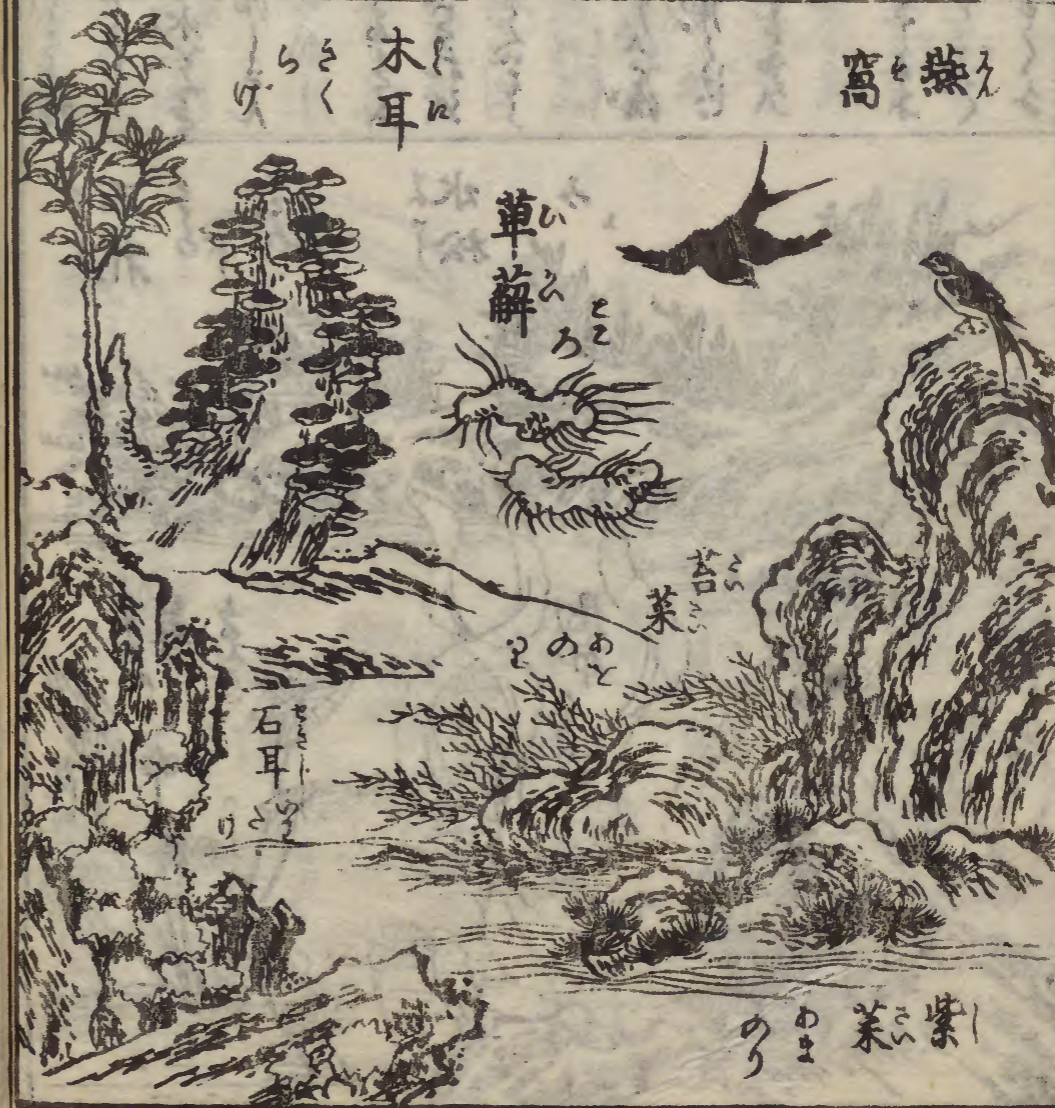
治下帶下とんり
 ○葶(腸胃)とんり(氣)を
 用く(吐)とんり(焦)とんり(客)を
 ○辨(心)を(の)を(か)り(煎)を
 用く(膈)噎(逆)とんり(治)を
 ○煎(心)の(か)り(煎)を
 犀(同)橋(抽)の(肉)と(煎)と(煎)
 ○芝(混)と(や)の(人)の(煎)と(煎)
 と(ま)り(神)ふ(つ)じ(智)と(は)
 氣(と)と(ま)り(煎)と(煎)
 ○鹿(角)の(風)氣(と)と(煎)と(煎)
 兎(の)骨(蒸)勞(熱)と(煎)と(煎)
 麵(の)根(と)解(を)
 ○石(花)は(上)焦(の)浮(熱)と(去)
 下(の)虚(寒)と(煎)と(煎)
 ○昆(布)は(水)を(煎)と(煎)と(煎)

○紫(菜)は(煩)熱(と)と(煎)と(煎)
 脚(氣)と(煎)と(煎)と(煎)と(煎)
 ○水(松)は(水)腫(の)や(み)と(煎)と(煎)
 ○燕(窩)は(虛)弱(の)と(煎)と(煎)
 ○石(耳)は(目)分(わ)と(煎)と(煎)
 ○精(と)と(煎)と(煎)と(煎)と(煎)
 ○女(の)子(と)と(煎)と(煎)と(煎)と(煎)



本草綱目卷之...

○杏仁の乾苦
 ○杏仁の油
 ○杏仁の皮
 ○杏仁の核
 ○杏仁の肉
 ○杏仁の骨
 ○杏仁の髓
 ○杏仁の精
 ○杏仁の氣
 ○杏仁の味
 ○杏仁の性
 ○杏仁の功
 ○杏仁の効
 ○杏仁の害
 ○杏仁の毒
 ○杏仁の瘡
 ○杏仁の癩
 ○杏仁の癰
 ○杏仁の疽
 ○杏仁の疔
 ○杏仁の瘡
 ○杏仁の癩
 ○杏仁の癰
 ○杏仁の疽
 ○杏仁の疔



頭書增補訓蒙圖彙卷之十八

果蔬

い部ふんごもの
 たぐいとちご

○杏仁の乾苦
 ○杏仁の油
 ○杏仁の皮
 ○杏仁の核
 ○杏仁の肉
 ○杏仁の骨
 ○杏仁の髓
 ○杏仁の精
 ○杏仁の氣
 ○杏仁の味
 ○杏仁の性
 ○杏仁の功
 ○杏仁の効
 ○杏仁の害
 ○杏仁の毒
 ○杏仁の瘡
 ○杏仁の癩
 ○杏仁の癰
 ○杏仁の疽
 ○杏仁の疔
 ○杏仁の瘡
 ○杏仁の癩
 ○杏仁の癰
 ○杏仁の疽
 ○杏仁の疔



○梨の熱嗽とやれ湯と
り痰と消し大気と
肺とくくかと
○柰の中焦り多くの不
足の氣を補ひ脾と和
氣ふくむは活を
○棗の脾胃とやれ多の津
液と生し心腹の氣と
さりと心肺とくくかと
○栗の氣を補ひ腸胃の
のろろを腎氣補ひ腰脚を
さりと活をさる栗 杭子
○柚の食と消し酒毒と解
腸胃の惡氣とさり婦
人孕て食とさりと胎と
修を



○相の腸胃のろろ熱毒と
利し微小湯とやれ小便と利
○松の大便とくじむのろろ
とさる痰と消し脾胃よ
りさりのへ月とくくかと
○橘の消湯とやれ胃のろろ
満中のろろのろろと
○椎の寸白虫と消し食と消
し自然のろろは秋嗽白濁
とやれ痔と消し
○枳のろろと利し酒毒と解
胃中の熱とくく
○推の腸胃とわづれんとま
て肥とくくかとさりとこれと
くくかと
○榛の氣力とは腸胃とま



○そのどろ水浮と治し酒
氣と散ど
○木瓜の脚氣筋のさうそ
くらくらんと治す
○菱の中と安し入膳と補ひ
酒毒と解し湯瓜や丹石乃
ごとと解と
○茶の小便と利し痰熱瓜
さる湯とやめ極むりそくか
く食と消し目と明くそと
○椒の風邪の氣は浮き中
とわさる女の經水と通ど
○胡頹の病と治と寒
熱の病小用と治と
○荔枝の風毒と消し耳目
明く胃と治し腸胃と治



○血痢と治と
○慈姑の産後ふひのせり
死せし難産をさるる治
○栲東の心と志つら熱と
消渴とと久しく腹と
敷及ととぬきし
○松子の諸風骨痛頭痛
うらめしきと治と
○猪眼の胃とひり脾と
産と補ひ智かまるととく
腹とと志ととけし身と
くして老ど
○其蕨のさたるの本より
よく脾胃ととと
○胡椒の中とわさる痰と去
腹痛とと胃口虚冷と治と



○瓜の皮と皮を剥き
 痰とせきとのどを利す
 土瓜 赤雹子同
 ○燕覆の膀胱を洗ひ糖と
 消し腫とに熱乳汁を通
 ○甜瓜 熱とのどを小便
 と利し煩渴候と暑
 月にくく暑にのどを
 ○苦瓜 邪熱とのどを
 去瓜の皮を心瓜とす
 一 同瓜の皮を心瓜とす
 錦荔枝 癩葡萄
 ○烏柿 皮をまかりかり
 火柿同 蘇柿 皮をまかりかり
 烘柿 つまらば白柿 皮をまかりかり



○蒂の瓜の蒂柿の蒂
 かり又蒂につくる葉目
 柿 茹をどの葉とあり
 ○菜の糖梅 かの葉と
 あり 房あり 柿ふの葉と
 ○仁の瓜の枝のうら
 小わりののかり
 梅仁 桃仁 杏仁 かな
 葉ありののかり
 ○核の梅桃 そのかごと
 くのののの瓜のののの
 枝の中葉にののののの
 わまののののののの
 ○紫糖ののののののの
 痛 長虫と生と



○砂糖さとうハ
心こころ肺はいととう

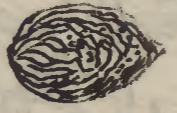
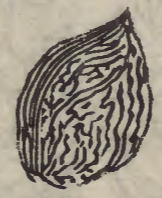
大おほ小こ腸ちやうの
熱あつととう
酒しゆ毒どくとと解げと

○氷こおり糖とうと
心こころ腹はらの熱あつと

目め瓜うりのこり
ととふ



核かく



仁に

菜さい



頭書かぶらぎ増ぞう補ほ訓くん蒙もう圖ず彙ゐ卷の之の十九じゅうきゅう

樹あか竹ちく

此部こゝにへうへ木き竹ちくのこりはままと

○松まつハく久く服ふくを
まま身みにはくくととし
てて老らうととしのここら
ととしの五ご葉えつとと俗
にに唐たう松そうとといいふ
○桐きりハくででかかりり又
鷄けい冠くわん木ぼくもも書しよ也
りりみみららのの幸さいややり
補ほみみのの諸しよ本ぼんふふんん多た
わわりり桐きりハく中ちゆうににもも肺はい
とといいふ



頭書かぶらぎ増ぞう補ほ訓くん蒙もう圖ず彙ゐ卷の之の十九じゅうきゅう

○檜ひのきハ深山しんせんあり
補て大本たいほんと多おほる白木しろぎ
 の本もと具ぐ曲まがむかど
 みまは本もとと利といて
 又またとと又また揮うふ
 つらるり
 ○圓まる拍ひハ多おほく栢くや
 て交まじへ松しょう又また竹たけり
 尖とがてく〜但たゞし
 葉は捨すてぬ〜
 色いろ黒くろく皮かわの〜
 檜ひのき同どう
 ○栢くハ柳やなぎあり
 一名いちめい雨あめ師しと〜
 皮かわわ〜



○杉すぎハ深山しんせんに生なず
補むらりの大本たいほんと
 方かたら木こ立たち直ちく小せう
 て枝えだ葉はををび〜
 葉は〜と毒どく瘡そうを
 洗あらひ水みづ又また浸ひ〜
 て脚あし氣け腫しゅ後ごと
 治ちを
 ○仙せん栢ぼくハ植うへて
 に形かたち〜
 名な羅ら漢かん松しょう
 一名いちめい羅漢松らかんしょう



類書曾補川家圖景九

○南燭補ハ五月補
 少補き白補花補は
 実補の補色補は補後補小
 紅補小補方補も補その補色補
補が補あり補は補本補魚補
 き補後補と補ん補て補時
 此補本補瓜補と補れ補ば補その
 後補さ補る補か補と補い補し補中
 小補多補く補も補水補が補
 の補ひ補ふ補に補極補と補
 方補の補と補補補
 ○山茶補ハ品補類補多補
 一補俗補ふ補さん補ん補ふ補
 此補の補小補冬補花補咲補く補を補
 紅補白補花補の補り補つ補を補さ
 へ補ま補さ補く補花補を補ふ補だ
 小補大補中補て補多補品補と補



南燭補

ん補ん補ん補

山茶補

つ補た補ん補

○櫻補ハ名補朱補桃補ス
 麥補菜補も補い補む補ひ補ふ補
 梅補小補多補く補と補花補と補稱補
 小補丸補今補花補と補い補極補
 此補の補花補を補採補桃補と補
 又補極補ハ補ま補あ補り補の補花補
 一補か補後補小補全補極補の補種補
 於補多補く補か補り補今補
 百補種補小補及補び補
 ○海棠補ハ花補白補
 紅補色補の補花補あり補と補
 花補の補あり補を補ふ補か
 一補の補こ補と補く補三補月補よ
 花補と補い補一補名補海補紅補
 花補と補い補



櫻補

海棠補

頁書...
 三

○躑躅の類多し
 紫花の二月の花
 さく赤つと三月
 花さくまんびつと
 かり垂く花大ふ
 ちてふ事あり勢
 富の花濃紅かり
 び
 美ありのらつと
 為四月花さく
 つうきうや白花
 と紫あり花大ふ
 てかり杜鵑花と
 又月花さく紅花
 又白紅あり種



○辛黄の葉細
 長し花白く七
 少し赤あり花
 と本葉花らふ
 表花さく
 ○木蘭の香蘭小
 似て花の蓮のごと
 くうち白くや
 ひらひら花と
 本蓮花といふ
 ○厚朴の葉大
 生し四季あま
 ぶ花をさへい
 わと一各榛



本草綱目卷之九

○錦帯花きんたいか 四月しがつ

花はな 楊やう 檀たん

て花はな 檀たん 小こ 木き

かり花はな 檀たん 物もの

白しろ 後ご 赤あか 成なり

○楊やう 檀たん 桑そう

かく花はな も小こ 木き

若わか 久ひさ 毛も ひらにに

一ひと 葉は の 莢えい と 毛も

空くう 疏しゅ 同どう

○棘えき 山さん 野の 小こ 木き



錦きん 帯たい 花か

きんたいか

楊やう 檀たん

やうたん



棘えき

角かく 楸しゅう

かくしゅう

木き 櫨し

きし



英えい 方ほう

白しろ 花はな たうたう 桑そう

○木き 櫨し の 五ご 六ろく 月げつ

一ひと 角かく の 小こ 木き

の 細こ 木き の 葉は

と 毛も と 冬ふゆ を 毛も

かきとつ 桑そう の 毛も

さきとつ 桑そう の 毛も

○角かく 楸しゅう の 毛も

と 月げつ の 白しろ 花はな

と 棘えき の 毛も と 桑そう

と 棘えき の 毛も と 桑そう

本草綱目 卷之七 木部 七

○楠木ぬつぎの葉はを塩しほに
 敷して子この虫むしのり
 て房ふさとひひきと
 入い信しんととのの入い毛もう
 ふふししり
 ○楮ちの皮かわと製せい
 て紙かみふふははり
 かかししのの入い穀こく
 構かまたたひひははり
 七月しちがつ七日にち日ひ童どう
 此こ葉はにに詩しをを瓜か
 書かきき二に層そうふふととまま

楠木ぬつぎ
ぬつぎ

楮ち
ち

楮ち
ち



○漆しの葉はぬぬを
 ふふけけるるとと秋あきまま
 ののききままととししまま
 ひひ本ほんとと器きおおと
 ゆゆららとととととと
 みみららににかかへへまま
 けけららりり
 ○木き樺ば二に名な岩い
 桂けい花かとと白しろ花か
 とと黄きん桂けいとと黄きん
 かかりり瓜か金きん桂けいととまま
 香かつつとと花はををりり

木樺きば
きば



頂書留補川蒙圖集十九

○桐の葉にうつら
 四月花さく白く
 為ゆふかりの木
 のり箱をうつら
 にびまぬ月白
 ○梧桐の皮まき
 ふーかーまき
 胡椒のこころ
 にちあるをた
 ふうとまき
 榎同
 ○榎の葉はう



に似く
 又粟ふれとま
 と榎まとう
 おらんらう
 本うく
 てま
 ○榎一名榎
 とつ
 み
 この品類
 本
 に成る



榎の葉はう

○藥の葉吳茱萸
 ふゆりるをまがま
 と皮をく白くう
 葉多う黄蘗し
 〇紫葳の葉をほ
 〇石南の石の湯
 〇石南の石の湯
 〇石南の石の湯
 〇石南の石の湯

〇狗骨の木のこ
 へるうて物の骨
 乃ゆいゆく物こ
 つゆいゆ本も
 書かる
 〇瑞香の葉を
 去花くゆら下
 香のくく久美白
 〇接骨の小便と
 通し水腫と治す
 一名本菴蓐を
 〇子豆の痛く
 美しゆく



本草綱目卷之七

○石種ノ葉魂いしむねのあたま似
 しろく櫓木舌種並
 同皮と秦皮といふ
 ○合歡あいこんハ五月ノ
 花さく久ね白也
 実ふさふさのり葉
 昼ひくもて夜赤
 ひんく一名夜合
 樹といふ
 ○榆う赤白二種
 三月小葉とせむ
 くら漬のぬし色
 一実と榆莢榆核
 といふ



○葉ハ本もとのえかり
 類葉るいあもを紅葉べにあ
 みつて落葉らくあをいふ
 宿葉しゆくあといふ
 ○株くさなるせむし俗
 ふつふつをいふ
 入と根ねといふと出
 多瓜株たかづといふ
 ○葉あはハ本もとのまを
 への事こと多おほし樹き不
 ちびふ同
 ○芽かハ草くさのり
 つつふつ入い萌も芽め
 といふスナハといふ



○楊の葉白青
 赤の四種ある白
 楊の葉まぐさ
 楊の葉あがり赤
 楊の葉かぶり
 楊の葉くさびあ
 楊の葉やなぎあ
 楊の葉にけぞ
 ○寄生の諸本よ
 わり枝のる本はま
 くふけり本はま
 まふりて本はま
 まふ本ともいふ
 ○柳の垂條ふ



柳
 まりやうた

白楊

水楊
 かな

楊の葉花白柳
 葉の柳のまのかり
 ○槐の葉やま
 葉あしてま
 ひのふ用白槐
 ちやと槐角といふ
 ○棕椽同一名即
 来といふ葉いり
 て物瓜みかして
 をいふ
 ○換檀の葉槐の
 皮青黄檀



柳

白檀 紫檀 赤檀

黒檀 のつらあざ

伽羅沈香 この木

朽てかきわり

○皂莢の葉 槐

似たり枝ふらふと

葉やよく黄なる

為候 皂莢子 大書

○薬の小本 散財

かたぐ俗ふを

○薪の粗と薪と

とらふりかき

さうへつつかき

○竹の干一種あり

草のゆて一な

花さたまのり花

もとをねんをへ

りへ花かきをり

とらふ枝をたれえ

すも

○竹の葉同

食とまの膳を利

痰と消し胃と

やふし水道と通

白檀 紫檀 赤檀

皂莢



槐

椋

梅檀

伽羅



柴

薪

本草綱目 卷之九

一節にすまむ
 ○林の竹より竹
 の根よりけり小
 といふなり
 ○葉の山ふけも
 子なり葉大ゆて長
 二天のりもは葉は
 根よりけり
 ○葉の竹の苗より
 たしむるもさ
 ○蘆竹の葉大なり
 てさふぬるもさ



蘆竹
 たしむる
 たり

蘆竹
 たしむる
 たり



竹
 たしむる
 たり

篠竹
 たしむる
 たり

筍
 たしむる
 たり

箬竹
 たしむる
 たり



桐目トウメの樹ツキ

ほつとホツトの樹ツキ

○樹ツキの本ノのノ木キ

砂スナ向ムカ

○炭ツギのノ木キ

烏カ銀ギンのノ木キ

つひツヒのノ木キ

○柿カキのノ木キ

まのマノくク無ム末マツ

かカんンとトかカんン



桐目トウメの樹ツキ

